

ベトナム語における関連づけ：日本語との対照を試みて

著者	村上 雄太郎
雑誌名	神戸市外国語大学外国学研究
巻	58
ページ	45-57
発行年	2004-03-31
URL	http://id.nii.ac.jp/1085/00000682/



ベトナム語における関連づけ

—— 日本語との対照を試みて ——

村上 雄太郎 (レー・バン・クー)

1. はじめに

ベトナム語では、ある文と文などを関連づける文末詞として、よく *thé* や *dây* という形式が使われる。これらの形式は、談話の中で、文と文、または文とそれが使われる状況との関連を明示するものである。いわば、事柄の背景にある事情を「前景化」して、事柄の構成要素についての情報を求めたり、またはその構成要素を特定化するものである。従って、文章をある一つのまとまりを持ったものとして統括するのに重要な役割を果たしている形式だと思われる。日本語に訳せば、次の例が示すように、*thé* は「～のですか」(または、その縮小形である「の?」) という表現が、*dây* は「～のです」という表現が得られる。

- (1) *Ai mua báo thé?*
誰 買う 新聞
(誰が新聞を買ったのですか。)

本稿は文部科学省科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))〔課題番号11410128〕による研究成果の一部である。

*dây*に関する部分は、1990年9月22日に、第4回つくば言語文化フォーラムで、行われた「ベトナム語における指示表現——日本語との対照を試みて——」という口頭発表の一部を修正・加筆したものである。発表の際、青木三郎氏とポリー・ザトラウスキー氏から、大変有益なアドバイスを数多く頂いた。ここに記して感謝したい。

Tôi mua đây.
私 買う
(私が買ったのです。)

しかし、関連づけに使われる「のです／のですか」は、いかなる場合でも、*dây* と *thế* に対応するわけではないようだ。

本稿では、先ず2節で *thế* と *dây* の用法の特徴を観察して、その間の相違を明らかにした上で、3節では、同じく関連づけに使われる「のです」の用法と対照しながら、ベトナム語のこれらの形式の特徴を考察し、4節では、文法化の観点から両言語の間の相違点の原因を探ってみたいと思う。5節では、まとめと今後の課題を述べる。

先ず、*thế* と *dây* とはどのように違うか見てみよう。

2. 関連づけに使われる *thế* と *dây*

先ず、*thế*、*dây* とともに疑問文に用いられるが、両方の間に、次のような違いが認められる。確かに、(2)の文も(3)の文も日本語に訳せば、「どこに行くの?」という表現が得られる。しかし、*dây* の使われるのは、「今」という時点に、「そこ」という場所で行われている活動に限る¹。従って、(4)~(8)のような場合には、*dây* は適当ではない。

(2) Anh đi đâu thế?
君 行く どこ
(どこに行くの?)

1 この事は *dây* (ここ) の文末詞としての用法にも言える。例えば、下の例では、*dây* の用法は、「いま」という時点の意味と「ここ」という場所の意味が、いわば主体化したものだと考えられる。

i Con đi đây. Mẹ nhớ giữ gìn sức-khoẻ.
子/私 行く お母さん 覚える 大事にする 健康
(それじゃあ、行ってきますから。お母さんも体に気をつけてね。)

- (3) Anh đi đâu đấy?
(どこに行くの?)
- (4) Hôm-quả, ai cho nó mượn tiền {thế/×đây}?²
昨日 誰 -させる 彼 借りる 金
(昨日、誰が彼にお金を貸したの?)
- (5) Hôm-quả anh cho ai mượn tiền {thế/×đây}?
昨日 君 -させる 誰 借りる 金
(昨日、君は誰にお金を貸したの?)
- (6) Hôm-quả anh cho nó mượn gì {thế/×đây}?
昨日 君 -させる 彼 借りる 何
(昨日、君は彼に何を貸したの?)
- (7) Anh cho nó mượn tiền bao-giờ {thế/×đây}?
君 -させる 彼 借りる 金 いつ
(君はいつ彼にお金を貸したの?)
- (8) Anh làm-sao {thế/×đây}?
君 どうする
(どうしたの?)

逆に、他の文末詞との組み合わせに関しては、敬意を表わす *ạ* を除いて、*đây* のみが、聞き相手に、何らかの形で、訴えたり働きかけたりすることを表わす文末詞 *ừ* (予想外の事柄に対する確認を表わす形式)、*mà* (説得や釈明の意味を表わす形式)、*chứ* (相手の意見を否定したり、ある事柄を再確認したりする形式) と併用することが出来る。例えば、

- (9) Tâm con đã về đây ừ ? (CH)
タム 子/あなた -た 帰る 確認を表す語
(タム、帰ったのかい?) (続)

2 例文中で、ベトナム語の単語をイタリックにするのは強調するためである。また、日本語のグロスとベトナム語のローマ字の区切りとの対応が正確に分かりやすくなるように、一つのグロスが二つ以上の区切り(音節)に対応する場合、音節と音節との間にハイフンを使うことにする。例えば、*hôm-quả* (昨日) のように。ベトナム語の正書法では、こういう場合には、ハイフンが使われないのが普通である。

- (10) _Ô-hay! Sao các-ông phá nhà tôi?
 驚きを表す語 なぜ あなた方 壊す 家 私
 _À! Thầy mày thuê chúng-tao phá đi để làm nhà-tây
 ああ 父さん お前 雇う 俺達 壊す っていく ため 作る レンガ家
 đầy mà. (TN)
 釈明を表す語
 (_まあ! どうして私の家を壊すのですか?
 _ああ! お前の父さんがレンガ家を作るので俺達を雇って壊させているんだ。)(続)
- (11) _Lúc-nãy mẹ-con mày ăn cám phải-không?
 さっき 親子 お前 食べる 糠 じゃないか
 Gái guộng cười cãi:
 ガイ 強いて 笑う 言い返す
 _Ăn chè đầy chú. (NG)
 食べる 善ざい 反駁を表す語
 (_さっき、おまえと母さんは糠の粥を食べたんだろう?
 ガイは作り笑いをして言い返した:
 _善ざいを食べたのよ。)

次に、関連づけに使われる「のだ」とそのベトナム語の対応表現を見てみよう。

3. 関連づけに使われる「のだ」とそのベトナム語における対応表現

「のだ」の用法については、これまで多くの研究が行なわれてきた。例えば、三上 (1953), 寺村 (1984), 田野村 (1990), 国広 (1992), 野田 (1997) などである。その本質については、例えば、田野村 (1990: 5) は次のように述べている。

ある事柄 α を受けて、 α とはこういうことだ、 α の内実はこういうことだ、 α の背後にある事情はこういうことだ、といった気持ちで命題 β を提出する、これが「 β のダ」という形の表現の基本的な機能であると言ってよい。

また、「のだ」による関連づけという用法については、庵他 (2000: 270-277) は、以下の(12)~(15)の例を挙げながら、4つに分類している。

- (12) 昨日は学校を休みました。頭が痛かったんです。
 (理由や解釈を表わす「のだ」)

- (13) 今日、私は大学を卒業しました。明日からは学生ではないんだ。
(言い換えの「のだ」)
- (14) 日曜で会社は休みのはずだが、吉田君は電話に出ない。洋子さんとデートをして
いるのかもしれない。
(モダリティ表現を伴う「のだ」(「のだ+モダリティ表現」))
- (15) どうしてこの時計を買ったのですか。
(疑問文に使われる「のだ」(前提を表わす「のだ」))

(12)~(15)をベトナム語に訳せば、それぞれ(16)~(19)のような表現が得られる。

- (16) Hôm-qua tôi đã nghỉ học. Vì bị đau đầu.
昨日 私 -た 休む 勉強 原因を表す語 被る 痛い 頭
- (17) Hôm-nay, tôi đã tốt-nghiệp đại-học. Có-nghĩa-là bắt-dầu
今日 私 -た 卒業する 大学 つまり 始まる
từ ngày-mai, tôi không-còn-là học-sinh nữa.
より 明日 私 -でなくなる 学生 もう
- (18) Chủ-nhật, công-ty nghỉ việc. Thế-mà anh-Yoshida lại
日曜日 会社 休む 仕事 それなのに 吉田さん 意外を表す語
không ra nhận điện-thoại. Có-thể-là anh-ta đang có-hẹn
-しない 出る 受ける 電話 かもしれない 彼 最中 デートする
với cô-Yôko (đấy).
と 洋子さん
- (19) Tại-sao anh mua cái đồng-hò này thế?
なぜ あなた 買う 個体名詞 時計 この

このうち、(15)の「のですか」と(14)の「のかもしれない」はそれぞれ *thế* と *đấy* に対応すると言えるが、(12)の説明や解釈を表わす「のだ」と、(13)の言い換えの「のだ」は *thế* にも *đấy* にも対応するとは言えない。そして、厳密に言えば、(14)の「のかもしれない」は *có thể là... đấy* と訳せないわけではないが、ここに *đấy* を使うことによって、聞き相手に対する話し手の主張が強調されるという意味合いが生じることになる。

また、「そこ」→「そちら」→「聞き相手」→「聞き相手への働きかけ」という

意味の拡張で, *đáy* は, 相手に言い聞かせたり, 念を押したりするのに使われる「のですよ」に近いと考えられる。例えば,

(20) —(お茶を一口飲んで) あら, おいしいですね。

—この前, 浄水機を買ったのですよ。(日)

(Hôm-trước tôi mỗi mua máy-lọc-nước đáy.)

この前 私 -たばかりだ 買う 浄水器

(21) Việc-gì-mà khóc. Thầy bán cho người-ta đáy. (TN)

-することはない 泣く 父さん/私 売る に 人

(どうして泣くのだ? 父さんは人に売ったのだよ。) (続)

4. 文法化の観点から見る「のだ」と *thế, đáy*

このように, 同じく文と文, または文と状況との関連づけと言っても, 説明や解釈を表わしたり, 言い換えたりする場合においては, 日本語では, 「のだ」を使うことが出来るのに対し, ベトナム語では, 一般に, *thế* も *đáy* も使うことが出来ない。

これには, それぞれの形式の由来に原因があると思われる。というのは, 「の(だ)」と *thế, đáy* の名詞性に差があるということに起因すると考えられるのである。

三上章 (1972: 235) が指摘しているように, 「のだ」の中の「の」が「完全に名詞くずれしている」ものである。そして, 文法化という観点から見れば, この名詞くずれ, つまり名詞性喪失のプロセスは, 「のが／のを」, それから「のに／ので」を経て進行しており, 「のだ」の中の「だ」も, 次の例が示すように, 「のが／のを」の中の「が／を」という格助詞の接続助詞兼務化の段階, それから「のに／ので」の中の「に／で」の接続助詞化の段階を経て, いわば「述定化」したものだと言えるだろう。³ (22)と(23)では「今までは暴風雨を警戒し

3 レー (1988: 83-88) を参照されたい。ちなみに, 「N1 + の + N2」に対応するベトナム語の属格表現は, “N₂ + của + N₁” である。この属格形は i の用法に見られる名詞から派生したものと考えられ, そして iii と iv のような連結詞 (や前置詞) の用法へと意味拡張していくと考えられる。↗

ていればよかった」ということと、「ベトナムはこれまで「部分撤退を段階的に続け、5～10年の間にはカンボジアの問題は消失する」としていた」ということが、それぞれ「近年、静穏な日にも災害が起こる」という事柄と、「撤退時期を繰り上げた」という事柄の背後にある事情であり、それぞれ「のが」と「のを」によって、「前景化」されたものだと考えられる。

文法的には、確かに、「のだ」の構文では、「～するのだ」が文の述語であるのに対し、「のが／のを」や「ので／のに」の構文では、「～するの／のを／ので／のに」は（主）文の状況修飾語として働く成分である。しかし、話し手の表現姿勢という観点から見れば、「のだ」構文の(20)の中で、「お茶がおいしい」事の背後に、「この前、浄水器を買った」という事情があると捉え、「のです」によって、この事情を明示するのと同様に、(22)と(23)においても、「近年、静穏な日にも災害が起こる」事と、「撤退時期を繰り上げた」事の背後に、それぞれ「今までは暴風雨を警戒していればよかった」という事情と「これまで「部分撤退を段階的に続け、5～10年の間にはカンボジアの問題は消失する」としていた」という事情があると捉え、「のが」や「のを」によって、この事情を明示すると言える。つまり、表現的には、(20)と(21)の「のです」も、それぞれに前接する動詞句を「前景化」するという点で、(22)の「のが」と(23)の「のを」とつながっているものだと言える。

「のが／のを」構文と「のだ」構文に共通するのは、ある事柄を理解するにあたって、それを単独で捉えるというより、それを別の事態と関連させて捉えるべきだ、そうすることによって、その事柄の注目すべきある側面が見えてくるのだという表現機能であろう。ここが、「のが／のを」と「のだ」によって、話し手が狙う表現効果だと言えよう。

i bảo vệ (守る) của (財産) công (公共): 公共の財産を守る

ii sách (本) của (の) tôi (私): (私の本)

iii sách (本) của (の／が) nó (彼) mua (買う): 彼の買う本

iv Nó (彼) mượn (借りる) của (から) tôi (私) ba cuốn (三冊) sách (本):
(彼は私から本を三冊借りた。)(レー (1993: 1-17) を参照)

- (22) 今までの気象学は『あらしの気象学』だったが、ほかに近年は『静穏の気象学』が必要になってきたという話がある。今までは暴風雨を警戒していればよかったのが、近年、静穏な日にも災害が起こる。

(朝日新聞「天声人語」1972-11)

- (23) また、ベトナム軍の撤退問題については、ベトナムはこれまで「部分撤退を段階的に続け、5～10年の間にはカンボジアの問題は消失する」としていたのを、撤退時期を繰り上げた。しかし、共同声明では、(後略)

(朝日新聞, 1985-8)

「の(だ)」の、このように極度な名詞性喪失、つまり語彙性の希薄化に対して、thé と dáy の場合には、文末詞として使われるようになっても、それぞれ指示代(名)詞としての性格、つまり語彙性が割合に濃厚に残っているようだ。つまり、基本的な機能としては、「のだ」は判定するものであるのに対し、thé と dáy はそれぞれ(前方)照応するものと指示するものである。

上述したように、dáy の場合は、その意味の拡張は、次のように表示できるだろう。

<それ/そこ/そちら→そちらに居る人：聞き相手→聞き相手への働きかけ>

それに対し、thé の場合は、次のように表示できるだろう。

<先の発話や行動→先の発話や行動に関与した要素についての補充説明を求める前提>

具体的には、thé は、次の例が示すように、元々は như thé (そのように/そのような)の短縮した形である。ただし、注目すべきは、この短縮の現象は、(主)文の述語動詞の後にしか起こり得なく、連体句として使われる場合は短縮しないということである。

(24) Anh đừng nói {như-thế/thế}.

あなたしないで言う そのように
(そんなに言わないで!)

(25) Minh rất thích có một tốc-độ {như-thế/×thế}. (CC)

俺 とても 好きだ 有る 一つ スピード
(あんなスピードが俺は大好きさ。)(木)

文末詞として、関連づけに使われるようになる場合では、上で述べたように、*thế* は、「のですか」に対応するものである。つまり、疑問文にしか使われないのである。ただ、疑問文と言っても、「のですか」と *thế* との対応関係は、(26)と(27)のように、事態に関与した「どこ/いつ/なぜ/誰/何」などについての補足説明を求める場合には、成立するけれども、(28)のような、選択疑問文の場合には、「のですか」に対応するのは、*thế* というよりも *hay sao (thế)* というべきであろう⁴。この点に関しては、前掲の(1)、(2)と(4)～(8)の各例も参照されたい。

(26) _これ、おみやげです。

(Đây, quà cho anh đây.)

ここ お土産 のため あなた ここ

_ありがとうございます。どこへ行ったんですか。

(Ô, quý-hoá quá! Anh đi đâu về thế?)

喜び等を表す語 有難い なんと あなた 行く どこ 帰る

(27) Sao về muộn thế, con? (CH)

なぜ 帰る 遅い 子/あなた

(どうしてこんなに遅かったの?) (続)

(28) _これ、富士山で撮った写真です。

(Đây là ảnh chụp núi Phú-Sĩ.)

これ である 写真 撮る 山 富士

4 この点で、*thế* は、中国語の「是...的」に類似している特徴をもっている。中国語の「是...的」構文と「のだ」構文との対照については、杉村(1982:155~172)や木村(2002)や井上(2003)を参照されたい。

富士山に登ったんですか。

(Anh leo núi Phú-Sĩ rồi hay-sao (thế)?)

あなた 登る -た 特定を求める語

×Anh leo núi Phú Sĩ rồi thế?

また, *thế* の文法化の構文的な条件・環境と言えば, 下の例が示すように, *thế* が直接な疑問文に使われることだと考えられる。というのは, *nói thế* は「そんなことを言う」を意味するが, (29b) のような間接な疑問文などの場合と違って, (29a) のような直接な疑問文では, *Ai nói thế ?* は「誰がそんなことを言いましたか?」というより「誰が喋ったのですか?」というように解釈されるのが普通だからである。

(29) a. (Ban nãy) ai nói *thế*?

さきほど 誰 言う そのように

(さきほど, 誰が喋ったのか?)

b. Anh có biết ai nói *thế* không?

あなた 有る 知る 誰 言う そのように 無い

(誰がそんなことを言ったか知っていますか。)

c. Ai nói *thế* sẽ bị phạt.

誰 言う そのように 仮定/未来を表す語 被る 罰

(そんなことを言った者は罰せられることになる。)

一方, *dây* は, 次の例が示すように, 元々は「それ／そこ／そちら」を意味する形式で, この意味は, 文末詞として名詞句の後ろに使われる場合にはまだ認めることが出来る。(32)の中の *dây* と(31)と(30)のそれとは連続したものだと考えられる。つまり, 上述したように, (30)→(31)→(32)の順で, *dây* の意味は次のように拡張されていると言えるのである。

<それ／そこ／そちら→そちらに居る人：聞き相手→聞き相手への働きかけ>

- (30) *Đây là nhà của nó.*
 そこ である 家 の 彼
 (そこは彼の家だ。)
- (31) *Đây là bác-Vì, có-phải-không?*
 である ヴィおじさん じゃないか
 (そこにいるのはヴィおじさんじゃない?)
- (32) *Bác-Vì đây ư ?* (CH)
 ヴィおじさん 確認を表す語
 (ヴィおじさんじゃない?) (続)

5. ま と め

以上述べたことをまとめると、次のようなことがいえるだろう。

まず、*đây* と *thế* との相違点については、*thế* は疑問文にしか使われなく、*đây* は肯定文にも、疑問文にも使われる。ただし、疑問文に使われる *đây* には制限がある。それは「今」と「そこ」という時間・空間の枠内に行われていて活動にしか使われないということである。

また、日本語と対照して一般的に言えば、説明や解釈を表わす「のだ」と、言い換えの「のだ」と、モダリティ表現を伴う「のだ」と、疑問文に使われる「のだ」(=「のですか」)のうち、言い換えの「のだ」を訳すのに、*đây* も *thế* も使うことが出来ないようだ。それから、説明や解釈を表わす「のだ」に対しても、原因・理由を表す *vì* を使うか、何も使わないのが普通である。

また、モダリティ表現を伴う「のだ」に対しても、ベトナム語には *đây* が使われる場合もあるけれども、その場合、話し手の主張が強調されるという意味合いが生じることになる。

最もよく対応するのは、「のですか」と *thế* の場合だと言えよう。ただ、この場合にも、日本語の表現と比べて、ベトナム語の表現がかなり制限を受けることが分かる。つまり、「のですか」は、ある事柄を前提に、その背後にある事情について尋ねるのに、広く使われるのに対し、*thế* の場合は、この前提になる事柄の構成要素 (つまり述語句の格成分)、に焦点を合わせて、「誰／何／

いつ／どこ」等のように、特定するために、尋ねるのが普通である。

「のだ／のですか」と *đây/thế* との間のこういう相違点は、文法化の観点から見れば、文末詞として使われるようになるプロセスで、「の」と *đây/thế* がそれぞれ被る語彙性の希薄化の度合いの差違に起因するものだと思われる。

本稿では言及する余裕がなかったが、「のだ」に対応しない *đây* の用法も興味深い問題であるが、今後の課題としたい。

引用資料

- (続) : 『続ベトナム短編小説選』. 竹内与之助・川口健一・今井昭夫訳注. 1987. 大学書林
- (CH) : 'Cô Hàng Xén', Thạch Lam. (続) 所収
- (NG) : 'Nghèo', Nam Cao. (続) 所収
- (TN) : 'Tù Ngày Mẹ Chết', Nam Cao. (続) 所収
- (日) : 『現代日本語初級総合講座 発展編』. 水谷信子, 梁島史恵. 1993. アルク
- (CC) : *Câu chuyện dưới tán lá rợp*. Nguyễn Thị Ngọc Tú. 1981. Phụ Nữ
- (木) : 「木蔭の物語」『流れ星の光, 現代ベトナム短編小説集』. ズオン・トゥー・フォン他著, 加藤栄訳. 1988. 新宿書房

参考文献

- 庵功雄他. 2000. 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』. スリーエーネットワック
- 井上 優. 2003. 「「のだ」文と“的”構文」『中国語学』250号.
- 木村英樹. 2002. 「“的”の機能拡張—事物限定から動作限定へ—」, 『現代中国語研究』第4期, 朋友書店.
- 国広哲弥. 1992. 「「のだ」から「のに」・「ので」へ—「の」の共通性—」. カッケンブッシュ寛子他 (編) 『日本語研究と日本語教育』. 名古屋大学出版会
- 杉村博文. 1982. 「「是…的」—中国語の「のだ」文—」『講座日本語学12』. 明治書院
- 田野村忠温. 1990. 『現代日本語の文法 I 「のだ」の意味と用法』. 和泉書院
- 寺村秀夫. 1984. 『日本語のシンタクスと意味 2』. くろしお出版
- 富田健次. 1984. 『ベトナム語重要文法語彙用例集 (1)』. 大阪外国語大学
- 野田春美. 1997. 『「の (だ)」の機能』. くろしお出版
- 三上 章. 1972 (1953). 『現代語法序説—シンタクスの試み—』. くろしお出版
- レー・バン・クー. [Lê Văn Cù] 1988. 『「の」による文埋め込みの構造と表現の機能』.

くろしお出版

———. 1993. 「名詞と名詞を繋ぐ của の用法と機能—日・越両語の属格の対照研究—」
筑波大学つくば言語文化フォーラム編『対照研究』第3号. 属格について

Horie, Kaoru. 1998. On the polyfunctionality of the Japanese Particle *No*: From the Perspectives of Ontology and Grammaticalization. In *Studies in Japanese Grammaticalization*. Tokyo: Kuroshio

Hoàng Phê ed. 2000. *Từ điển Tiếng Việt* (ベトナム語辞典). Hà Nội-Dà Nẵng: T.T. Từ Điển Học

Thompson, Laurence C. 1965. *A Vietnamese grammar*. Seattle: University of Washington Press.